



Public Place Conference 2017

「公共空間がもたらす本質的な価値とは何か」

- 「公共」だからこそ「創り・残せる」都市のアメニティ -

「日常の居場所が育む地域のレジリエンス」

まちなか防災空地

兵庫県神戸市

千葉県千葉市学園通り

「地域が育てる居場所としてのストリート」

2017.11.21.Tue 15:30-17:00

会場：ミートビル3階 和歌山県和歌山市ト半町33

15:30-15:40 (10分) 趣旨説明 ◆園田 聡 (有)ハートビートプラン・まちなか広場賞審査員長)

15:40-15:55 (15分) 事例紹介①：日常の居場所が育む地域のレジリエンス・神戸市まちなか防災空地
◆本田 互氏 (神戸市役所・まちなか広場賞受賞者)

15:55-16:10 (15分) 事例紹介②：地域が育てる居場所としてのストリート・千葉市学園通り
◆中村圭吾氏 (NPO法人 Drops・まちなか広場賞受賞者)

16:10-17:00 (50分) ディスカッション：公共空間がもたらす本質的な価値
◆コーディネーター：園田 聡 (有)ハートビートプラン・まちなか広場賞審査員長)
◆パネラー：本田 互氏 (神戸市役所・まちなか広場賞受賞者)
：中村圭吾氏 (NPO法人 Drops・まちなか広場賞受賞者)
：山下裕子氏 (全国まちなか広場研究会 理事)

主催：一般社団法人 国土政策研究会 公共空間の「質」研究部会

※本企画は、国土交通省都市局 まちづくり推進課 官民連携室との連携で開催する「官民連携まちづくり祭 in WAKAYAMA」のプログラムとして開催します。
お申込み及びお問い合わせは裏面のご連絡先をお願い致します。

企画主旨

PPP・公民連携の号令のもと、収益性の観点からの評価が公共施設や公共空間にも求められている近年、これまで赤字運営だった施設や空間が民間活力の導入と戦略的な経営によって再生された事例が各地で生まれはじめています。行政の補助金に頼らずにコンテンツ力とマーケティングをベースにした戦略的な経営で自立的、継続的な収益を確保し、それを施設自体やエリアの価値向上のために再投資するモデルは施設運営の一つの在り方であると言えます。このような民間活力の導入による自立運営を目指すモデルは、人口や都市機能の集積度合い・都市におけるキーマンの有無等、一定の条件下で成立するといえる一方、全ての都市が一律に目指したところで成功するものではないとも考えられます。

このような背景から多くの自治体では、赤字運営の施設をあきらめて閉鎖していくのか、それとも金銭的な収益性を超える価値を提供しており地域に必要なものであるとして残していくのか、という判断を迫られていると言えます。そうした中で、「人々の生活において必要度が高く、その存在によって暮らしをより豊かにする」という公共施設や公共空間本来の役割をあらためて見つめ直し、公共だからこそできることも含めて私達が未来に残していくべき公共空間とは何なのかということを考えたいと思います。

この企画では、人口減少社会の中で本質的な価値を持ち続ける公共施設・公共空間であるためには何が重要なのか、「公共」の持つ本来的な意味と価値は何か、というテーマでバックグラウンドの異なる多様なパネリストの方々と共に語り合い、次世代に残すべき公共空間の価値と在り方を探ります。

主催者概要

一般社団法人 国土政策研究会 公共空間の「質」研究部会について

『暮らしを豊かにする『質』の高い公共空間』をテーマに、さまざまな課題について政策提言や普及活動を行なうとともに、全国で行われている公共空間活用事例やノウハウを共有しながら、実践者やマネジメント組織とのネットワーク化をめざすオープン・プラットフォームです。

公共空間の「質」研究部会の主要事業

研究事業 パブリック・ライフの視点から公共空間の「質」を測る新たな評価指標の構築

表彰事業 豊かなまちなか広場の表彰を通した「パブリック・ライフ・ファースト」の理念の啓蒙啓発

交流事業 公共空間の視察や企画の開催を通した実務者・関係者のネットワーク構築

まちなか広場賞：表彰事業

まちなか広場賞は、まちでの暮らしを豊かにする役割を果たしている「まちなか広場」を表彰するもので、2015年～17年の3年間で全国25都市28広場から応募をいただいています。

■まちなか防災空地：第2回まちなか広場賞 奨励賞受賞
■学園通り：第1回まちなか広場賞 特別賞受賞

事例と登壇者のご紹介



『まちなか防災空地』（兵庫県神戸市）

阪神・淡路大震災以降発生した空地・空家問題に対して、様々な試みから生まれた防災空地。

災害時には一時避難場所や消防活動用地などの防災活動の場に、平常時は、コミュニティを育む場として利用可能な「空地」です。

家庭菜園、花壇、芝生、黑板広場など、地域自ら使いたくなる広場が生まれ、コミュニティが育まれた事例も出てきました。空地・空家が増えるこれからの住宅地での公共的な空間のあり方を皆様とお話したいと思います。



本田 亘
神戸市役所
まち再生推進課



『学園通り』（千葉県千葉市）

千葉大学正門から京成みどり台駅へ続く、まっすぐな街路「学園通り」。2012年秋、電線地中化に伴う道路工事を契機に、地域住民自らによる沿道の植栽帯管理が始まりました。

まちを自分事に捉え、使いこなす人々が増えてきたとき、気が付いたら街路は“広場みたいな空間”になっていました。

沿道に事務所を構え、活動を始めて6年目。これまで出会ったあまたのトラブルと喜び。それを通じた発見を紹介させていただきます。



中村 圭吾
NPO法人Drops

お申込み方法

下記URLよりお申込みください。
http://www.milt.go.jp/toshi/toshi_machi_tk_000064.html
●定員（300名 / 先着順）に達した段階で募集を締め切らせていただきます。

お問い合わせ先

一般社団法人 国土政策研究会 公共空間の「質」研究部会
mail: publicstudygroup@gmail.com
HP: <http://publicplacestudy.org>